

# 東日本大震災時に無償提供したあやとりひも 15年後にカンボジアへ 埼玉の女子高校生の活動に協賛 子どもたちへ笑顔をお届けた

ひも一筋70年以上続く、大阪のひも製品メーカー、森製紐株式会社(本社:大阪市東成区、代表:森 真彦)の広報 森 善真と申します。当社はこの度、2011年の東日本大震災時に、被災地の復興支援として3万本以上無償提供したあやとりひもを、15年後の2026年3月、埼玉県的女子高校生の活動に協賛する形でカンボジアの子ども達へお届けしたことをご報告いたします。



[あやとりを楽しむ様子]



[鈴木さんと子ども達]



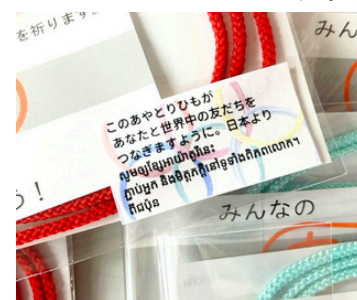
[発送前のあやとりひも]

2011年4月、当時社長だった父 森勝久は「避難所の子どもたちに、少しの楽しむ時間を届けたい」との思いから、仕入先の協力を得てあやとりひもの無償提供を開始しました。プレスリリースを発信し、申し込みを受け付ける形で、東北・関東の被災地(避難所や幼稚園、小学校など)へ3万本以上をお届けしました。その時に、残ったあやとりひもは、現在も介護施設や幼児施設に、ご要望があれば無償提供しております。

2026年3月、埼玉県立和光国際高等学校1年生(当時)の鈴木希菜子さんから一通のメールが届きました。NPO法人教育援護会・EIMEIグループの協力のもと、カンボジアの貧困地域の子どもたちへの支援活動に取り組む鈴木さんは、現地の子どものために笑顔をお届ける遊び道具として、あやとりひもを探しご連絡をいただきました。私は、すぐに兄である現社長に相談・了承を得て、震災時に復興支援用で製造したあやとりひもを協賛させていただきご連絡をしました。

発送にあたり、少しでも喜んでもらえるように、あやとりひもにカンボジア語と日本語のメッセージを添えました。

**សូមឲ្យខ្សែអង្រែងនេះភ្ជាប់អ្នកជាមួយមិត្តភក្តិនៅទូទាំងពិភពលោក។ ពីប្រទេសជប៉ុន**  
**このあやとりひもが、あなたと世界中の友だちをつないでくれますように。日本より**



実は、あやとりは国際あやとり協会(ISFA)が存在するほど、世界各地で昔から親しまれてきた伝承系の遊びです。言葉が通じなくても、ひも一本で笑顔がつながる、そんな国境を超える遊びです。

2026年3月27日～31日、鈴木さんはカンボジアを訪問。後日、現地の子どものたとあやとりで遊ぶ様子など、写真とともに活動報告が届きました。

震災時、父が「子どもたちに笑顔になる時間を持って欲しい」とつくったあやとりひもが、15年後に海外の子どもたちに届けられるとは思っていませんでした。鈴木さんの行動のおかげです。あやとりは世界をつなぐ遊びだと改めて感じました。

大変お忙しいとは存じますが、この件につきましてぜひご取材いただき、報道のお力でより多くの皆さまへ届けるきっかけとしていただけましたら幸いです。

**【お問い合わせ先】**※ご取材いただける場合は、事前に下記までご連絡くださいませ。

森製紐(もりせいちゅう)株式会社 広報担当 森 善真

〒537-0021 大阪府大阪市東成区東中本2-17-18 TEL:06-6974-0033 / FAX:06-6971-7789

Mail:y.mori@mori3.co.jp HP:https://mori3.co.jp SHOP:https://mori3-store.jp